



大相撲7月場所15日目。照強(手前)をはたき込みで破った琴恵光(右)。東京・両国国技館

琴恵光、充実の7月場所

再入幕で自己最多の10勝

大相撲7月場所は2日から低く攻める取り口が目立った。7日目に栃ノ心、8日目には高安と大関経験のある実力者を連続で撃破するなど内容も充実。「シングルに自分の持ち味だけを出す意識に切り替えた。それが良い方に向いた」と振り返った。

答、関連記事

再入幕の舞台で自身最多の10勝。4カ月ぶりに開催された7月場所でも本領を発揮した琴恵光は「うれしい」と喜びをかみしめた。

今場所は鋭い立ち合い

から低く攻める取り口が目立った。7日目に栃ノ心、8日目には高安と大関経験のある実力者を連続で撃破するなど内容も充実。「シングルに自分の持ち味だけを出す意識に切り替えた。それが良い方に向いた」と振り返った。

観客の歓声がなく、支度部屋でマスク着用が義務づけられるなど、異例の環境に戸惑う力士も多かったが、「やることは変わらない」と冷静な心構えも奏功した。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で夏場所は中止に。ぶつかり稽古の自粛が通達されるなど思い通りに動けない時期もあった。だが、その間に稽古内容や体のケアを見詰め直し、「自分と向き

合ってきた。やらなきゃいけないことをしっかりとやってきた。地道な努力が実を結んだ。

「少しでも刺激になれるように頑張っている」。

今場所は7月上旬、豪雨に襲われた九州地方に向け、良い相撲を取って元気を与えられたら」との思いもあった。9月の秋場所も、地元その勇姿を届ける覚悟だ。

所属する佐渡ヶ嶽部屋では、20歳で新入幕の琴勝峰や22歳の琴ノ若らが着実に力をつけている。兄弟子の元大関琴奨菊は、「琴恵光が若手を引っ張ってくれている」と明

かす。琴恵光も弟子の躍進を奮闘材料にして、

「少しでも刺激になれるように頑張っている」。